

トキの野生復帰に係る最近の動きについて

1. トキの死亡事故について

- ・ 3月10日、佐渡トキ保護センターの野生復帰に向けたトキの訓練施設（順化ケージ）において、9羽のトキの死亡が確認された。被害原因は、監視カメラの映像や残された足跡により、テンに襲われたことによるものと推測される。
- ・ 今回の事故を検証するため、有識者で構成される「トキの死亡事故にかかる検証委員会」を設置。5月17日に報告書が提出され、環境省と新潟県が役割分担を明確にし、業務を実施する体制を整備すること等の改善策を提言いただいた。
- ・ 今後、検証委員会による検証結果や専門家の意見を踏まえ、施設の改修等の再発防止策を早急を実施することとしている。

2. 放鳥したトキ

- ・ 平成20年9月に10羽、平成21年9月に19羽のトキを放鳥。うち現在確認しているのは26羽（半年以上行方不明の4羽も含む）
- ・ このうち、5月25日時点で佐渡島において5ペアの営巣と31年ぶりとなる野生下での産卵を確認。ペアの状況は次のとおり。

	オス	メス	営巣 確認日	抱卵 確認日	その他
A	08	25	3月14日	4月6日	4月12日 巣を放棄
			4月25日	4月30日	5月10日 卵1つをカラスに奪われる
					5月20日 巣を放棄
B	06	30	3月17日	3月28日	4月22日
					4月26日
					4月29日
C	11	31	3月28日	4月12日	5月9日 カラスに巣をつつかれ、その後卵放棄
			5月14日		
D	09	21	4月6日	4月18日	5月20日 卵2つをカラスに奪われる
E	22	26	5月4日		

注：オスは 22のみ3歳、その他は4歳 メスは 21のみ4歳、その他は2歳

- ・ これまで3羽のトキが長く本州で確認されていたが、佐渡に戻ってきたり、また本州に戻ったりするものが現れるなど、本格的な繁殖期を迎え広範囲の移動が見られている。



抱卵とみられる様子を確認
(3月29日、羽茂地区)



卵を放棄する様子
(4月23日、羽茂地区)

3. 飼育下のトキ

- ・平成22年1月8日、分散飼育のためにトキ2ペア4羽をいしかわ動物園に移送。今後、島根県出雲市、新潟県長岡市においても分散飼育の実施が予定されている。
- ・飼育下のトキは3月10日トキ死亡事故により、佐渡トキ保護センターに103羽、多摩動物公園に7羽、いしかわ動物園に4羽の計114羽となった。
- ・平成22年の繁殖期は21ペアで繁殖を計画。5月21日時点でヒナが53羽生育しており、これまでで最も多く誕生している。

4. 今後の野生復帰に向けた放鳥について

- ・6月2日にトキ野生復帰・飼育繁殖専門家会合を開催し、今後の方針を検討する。